

Concept Book



福島こども園が目指すもの



未来（あす）を生きる力を育てる

最近できた私立の新しい園というと、たとえば、英語や読み書きなどの早期教育を行うといったイメージを持たれる方もいるかもしれませんが、私たちが目指しているのは「昔ながらの王道の保育」。

それは、今も昔もまったく変わらない、

「こどもはあそびの中から学ぶ」ということ。

こどもたちは身近な環境の中で、自分の興味の赴くまま夢中になってあそびます。そういった経験を繰り返し、想像し、共感し、思考する力も身に付けていきます。

あそび力を伸ばすことは、未来（あす）を切り拓くこと。

こどもたちのあそびがより豊かになるように、こどもたちのあそびを支えていきたい。

それが私たちの想いです。



ロゴに込めた想い

人のねっこを育てる

乳幼児期は、人格形成の基礎（人のねっこ）を育む大切な時期です。

人格形成の基礎というのは、樹木に例えると、地中にある「根っこ」の部分。

しっかりとした根っこがあって、はじめて幹が育ち、枝葉が成長します。

私たちはその想いをこの「ロゴマーク」に表現しました。

根っこの成長には、十分な養分が必要です。

大人との穏やかな関わり合いの中で、自分の生理的な欲求が十分に満たされること。

それが、こどもひとりひとりの情緒の安定に繋がっていく。

そうした、毎日の愛着関係の中から、子どもは、大人を、そして自分の周囲の人々を信頼し受け入れていきます。

これが、私たちの理念です。



0歳から2歳児までの保育

「みんな一緒」ではない保育

0歳～2歳児までの乳幼児期において、まず大切なことは、ここ（園）が、暖かな場所で、自分が大切な存在だと思ってもらうことです。というのも、こうした関係性が情緒の安定へと繋がっていくからです。

では、どうしたら、小さなこどもたちにそのように感じてもらえるのか？

キーワードは、みんな一斉で行うのではなく、ひとりひとりに合わせた保育（「みんな一緒」ではない保育）

私たちは、食事・着脱・排泄などの生活面を中心に、担当制を行い、ひとひとりに寄り添って行く丁寧な保育にこだわっています。

この大切な乳幼児期。大人から「大切にされた」・「愛された」という想いで、子どもたちの心のポケットを十分に満たしてあげましょう。

3歳から5歳児までの保育



異年齢という教育・保育スタイル

たとえば、想像してみてください。

★年少のこどもが、年長のこどもの積み木を見ながら、
何度も挑戦し、できるようになっていく。


★年長のこどもは、少し我慢をしながらも、年中や年少
のこどもに、ルールのあるあそびを根気強く教えていく。

自分ひとりだったら、その瞬間、成し遂げならなかったこ
とも、友達や集団の力を借りて、次第にできるようになっ
ていく。こうした異年齢での活動が、より深い学びへつな
がっていきます。

これこそが、異年齢保育の魅力です。

年齢も性別もそれぞれ違う、様々な個性を持ったこども同
士が関わり、時にはケンカもしながら、お互いを受け入れ
ていく。この幼児期に、より多くの人と関わる経験を。

私たちが伝えたい異年齢保育の意義です。



室外あそびについて

あそびの基本は、外あそびから

この園舎は、どの部屋からも、すぐに園庭に出られるように設計されております。

園庭では、大きな築山と芝生、自然を観察できるビオトープ、自分たちで収穫できるキッズファーム（畑）など、魅力的な環境がすぐそこにあります。特に大型遊具はないけれど、こどもたちは自分たちで遊びを展開していて、いつも楽しそうです。

また、園周辺には、魅力的な公園・神社なども沢山あり、散歩の目的地には事欠くことはありません。

室内よりも開放的な気持ちにもなれる室外。そこで過ごすいくつもの瞬間は、たくさんの刺激をこどもたちに与えてくれます。

私たちは、外あそびを活動のまんなかに入れていきます。

室内遊びについて

こどものアイデアを大切に

保育園というと、「キャラクターの玩具が散乱しており、マスコットのエプロンをした保育者が大きな声でこどもたちに話しかけている」というイメージを持たれている方もいらっしゃるかもしれませんが、私たちの園は、一味、違います。

多くの玩具は、木製のものを使っており、こどもの想像力の妨げになるような商業的な玩具は、全く置いておらず、室内はものが散乱しないように整理しています。また保育者も落ち着いた家庭的なイメージを大切にしており、清潔感のある服装を心がけております。

室内あそびは、戸外あそびと違い、子どもが想像力を働かせ、集中して遊び込める室内環境にこだわっています。

保育者はこどもの様子をよく見て、いろいろと考え、室内の環境を構成しています。こども達は、その環境の中で、自分のアイデアを形にしていきます。

行事について

こども達によるこども達のための行事

よく聞くのは、遠足から始まり、運動会・表現会・卒園式など、園は何かと行事に追われることが多い・・・

それは行事自体が目的化しているからです。

そうではなく、、、

★行事は大人に披露することを目的地にするのではなく、こども達が無理なく、最後まで楽しんで行うもの。

★行事は普段の活動の中から、自然と発展し、行事に繋がっていくもの。

私たちはいつも思います。

こども達によるこども達のための行事を・・・

もしかしたら、他の園と比べて、派手さはないかもしれないけれど、自由で楽しそうなこども達の様子をご覧いただければと思います。

基本的な生活習慣について

一生涯続く生きる基礎を

園での生活は「食べる」「遊ぶ」「寝る」という生活のリズムの中で、たとえば手洗い、片付け、食事マナー、整理整頓などの基本的な生活習慣を身に着ける場でもあります。

この時期に身についた基本的な生活習慣は、一生涯続く生きる基礎となります。

もちろん園で学ぶことも重要ですが、ご家庭と協働しながら、ご家庭でも一緒に取り組んでいただきたいと思います。

世間では、こどもの成長が早いことが良いという風潮がありますが、焦りは禁物です。

こどものペースで、かつ根気強く、こどもの発達段階にあったものを、ご家庭と園とが協働し、一緒に身につけていきましょう。

自然体験について

毎年、山へ行きます。



親子の遠足は山へ行き、自然体験を行います。

森の中は滑る斜面があったり、見たことのない虫が出てきたりと、何が起きるかわかりません。こうした多様で未知の体験をすることで、こども達の五感や感性は大いに刺激され、考える力（思考・想像・観察・科学的思考）や他者に伝える・共有する・協同する力（表現・コミュニケーション・理解を深める）が培われます。

レイチェル・カーソンは著書「センスオブワンダー」の中で、「美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なものにふれたときの感激、思いやり、憐れみ、賛嘆や愛情などのさまざまな形の感情がひとたびよびさまされると、次はその対象となるものについてもっとよく知りたいと思うようになります。」（レイチェル・カーソン,1996）



こうした不思議なものに出会ったことで生まれ出る、こども達の心の輝きはやがて好奇心（探求心）の基礎を育みます

子育て支援について



ご家庭と園。手書きの帳面で想いを伝えあう。

世間では、何かと「デジタルDX」が叫ばれていますが、私たちの園の連絡帳（帳面）は、未だに手書きのものを採用しています。

そこには、しっかりとした理由があって、、、
ご家庭と園とで「こどもの成長を喜び合う」という共通の想いを一緒に共有したいから。昨日できなかったことが今日できるようになる。その瞬間をです。

古い考えかもしれませんが、デジタルに比べ、手書きの帳面の方が、お互いの想いはより伝わると思います。

また、この手書きの帳面の件は一例に過ぎず、私たちはいつも、ご家庭と園が相互に高めあうよう、ご家庭との協働関係の構築を目指していきたいと考えております。





FUKUSHIMA NURSERY

幼保連携型認定こども園

福島こども園

住所：〒929-0112

能美市福島産業団地土地区画整理事業施行地区内2街区1番地

TEL：0761-55-0288